



例年より短い31日間の夏休みが終わり、校庭では運動会練習に励む子どもたちの姿が見られます。今年の運動会は、9月20日。練習の成果を見せる「ここの一番」の大事な日です。当日を心待ちにしている子どもも多いことでしょう。しかし、子どもたちの中には、かけっこやダンスが苦手で、運動会を不安に思っている子どもいるかもしれませんね。子どもは、「こうなりたい」という理想の自分と「頑張りたいけれど自信のない自分」のはざままで揺れ動いているのです。「なりたい自分」が優位に立ったときには、弾みがついて頑張れます。反対に、「自信のない自分」が優位に立つと、身がすくみ一歩踏み出せないかもしれません。そんなときは、周りの温かい応援が何よりの力。ほんの少しの勇気を出すきっかけとなります。原田小のどの子どもも、「運動会、楽しかった！」と言えるよう、会場全体で見守っていきたいものです。大きな声援をよろしく願います。



以前、藤川洋子さん(心理学者)の講演「発達障害の理解と支援」を聴く機会がありました。講演の最後に、障害のある子どもの幸せに必要なこととして、下記の4つが大事だと話されました。この4つは、障害の有無に関わらず、どの子どもにも必要なことと思われます。運動会場の生き生きとした「親」「先生」「地域社会」を見せる場となり、子どもの幸せにつながりますように。

子どもの幸せに必要なこと...

- 1 親が生き生きしていること
- 2 先生が生き生きしていること
- 3 地域社会が生き生きしていること
- 4 子どもの問題行動は何かの「鏡」だと考え、子どもを叱ってすませるだけでなく、大人が何かを学び取る姿勢が必要。

※次回の特別支援教育便りは、11月です。

特別支援学級の学習紹介

~~視空間認知のトレーニング~~

文字を正しく書くことができない、文字の形を覚えられない、図形を認識したり絵を描いたりすることが難しいなどの問題は、視空間認知の能力がうまく発達していない場合に起こります。何らかの原因により、眼球から送られてきた映像を、形や図として正しく脳で認識することができていないのです。この力が発達していない場合には、トレーニングによって視空間認知の能力を高めていく必要があります。

脳に送られてきた映像は、上下左右が逆転していると言われますが、私たちには方向を認識する力があり、本来は形の方向を正しく認識できます。しかし、左右の認識力が育っていない場合は、そのように正しく認識できないので、鏡文字を書いてしまうことがあります。また、線が複雑に重なった形を見て、どのように線が交差しているのかを理解するのが難しい場合があります。そうすると、漢字のような複雑な文字を見たときに、線がどのように交わっているのか理解できないので、正しい漢字を書くことができません。形を認識・分析することは脳の後頭葉、記憶することは側頭葉、方向を認知することは頭頂葉の役割と考えられています。

視空間認知の力は、形あるものを見て・触れて・動かして・それをまた見る、ということを繰り返すことで発達していくと考えられています。実は、昔の遊びの「お手玉」「ビー玉」「けん玉」などは、この視覚機能の発達にはとても役立つ遊びでした。最近ではこのような遊びをあまりしなくなったことも視覚機能の発達が遅れる人が増えている原因なのかもしれません。そこで、特別支援学級では、視空間認知のトレーニングを意識して行い、教科の理解を高める手助けを行っています。

※興味のある方は特別支援学級担任にお声かけください。トレーニング方法を紹介します。

【参考】「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」北出勝也・図書文化・2018年